



令和5年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会

◇法人理念 「ともいきる」

理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

- 人を大切にします
ひとりの「人」として向き合うこと。
相手の良さを知り、自分の良さを知ること。
相手から学び続けること。
- 誠実に向き合います。
人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。
仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。
行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。
法令等を遵守すること。
- 「はたらく」姿を支えます。
先が見通せることで保護者に安心感を与えること。
できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。
はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠ノ井布施高田1034番地3 FAX 026-299-3839

2. 役員組織

理事:6名

監事:2名

評議員:7名

3. 総括

令和2年1月頃から、感染拡大を始めた新型コロナウイルス感染症が、今年度5月に感染症5類移行となり、日常でできる感染症対策は継続しながら、いつもの生活を取り戻しつつあります。

年度末での職員数は44人（うち育児休暇中1人）、昨年比+1人となりました。年度途中の採用は4人、退職者は5人となっています。労務管理にも目を向け、働きやすい職場環境を模索した年でした。勤続5年以上の職員が2人退職したこともあり、人材の定着に向けては課題が残ります。「人を大切に」という基本姿勢のもと、キャリア形成を意識できるような研修や資格取得、給与体系の見直し等の取り組みが必要になってきています。

社会福祉充実残額に伴う社会福祉充実計画については、社会福祉施設等整備補助金の申請済となっており、令和6年度6月頃に結果が出る予定となっています。

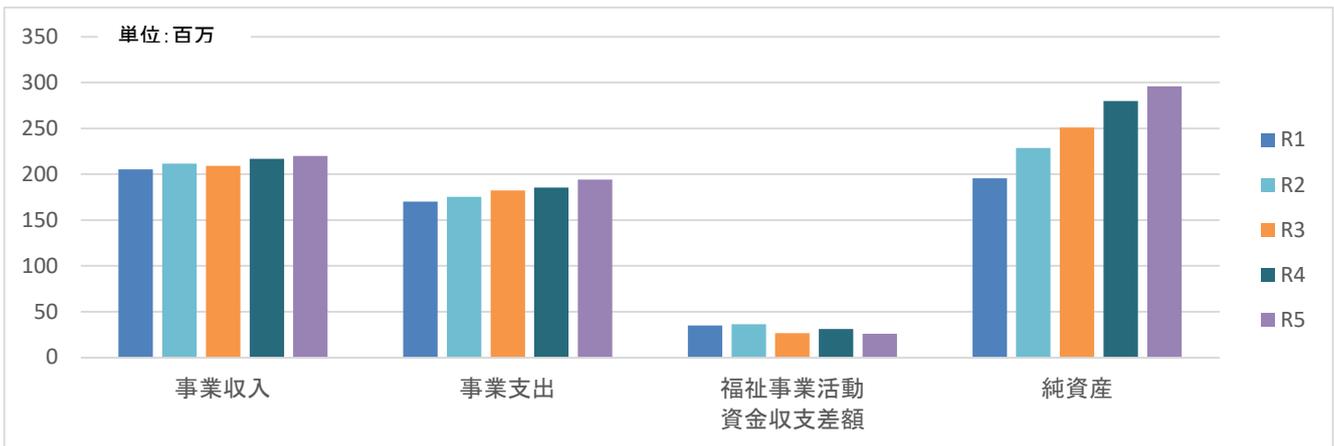
令和6年度の報酬改定に向けては、各管理者が小まめに厚生労働省、こども家庭庁の情報を取得し、概要や自事業に関わる内容について、理解を深めました。

4. 経営

社会福祉法人ともいき会 過去5年間決算推移

(単位:千円)

	R1	R2	R3	R4	R5	前年比
事業収入	205,186	211,619	208,991	216,718	220,076	102%
事業支出	170,101	175,419	182,396	185,459	194,144	105%
(うち人件費)	132,079	137,159	145,463	148,941	154,705	104%
人件費率	64.4%	64.8%	69.6%	68.7%	70.3%	-
福祉事業活動資金収支差額	35,085	36,200	26,595	31,259	25,933	83%
施設整備・財務活動収支差額	-16,944	-24,687	-14,501	-49,277	-20,753	-
当期収支差額	18,141	11,513	12,094	-18,018	5,180	-
純資産	195,618	228,509	250,884	279,867	295,711	106%



事業収入については、前年度比+2%となりました。各管理者が立てた予算よりは、-5%となっていますが、目標設定の高さや、人の入れ替わりによる加算が取得できなくなるなどの要因はありました。それでも数値を意識して運営に取り組む姿が自然になってきたことは、法人の力となっています。

事業等支出については、ウィズ就労支援センターの引越に伴う、改修費用、引っ越し費用、敷金礼金等の手数料、備品購入費用などが増加しました。人件費率は70%となりました。事業ごとの内訳は、障害福祉サービスが68%、公益事業が77%となっています。光熱水費の高騰は継続していますが、昨年度に引き続き、県の価格高騰対策支援金を受けました。

5. 法人内会議

会議名	回数	主な協議内容
理事会	5	<ul style="list-style-type: none"> ・R5.5.31 監事監査 ・R5.6.7 令和4年度事業報告、計算書類、財産目録の承認 ・R5.6.26 理事長選任 ・R5.8.21 就労支援センター移転に伴う賃貸契約 生活支援センター(基準該当居宅介護)の指定廃止 ・R6.3.8 令和5年度事業計画、予算
評議員会	1	<ul style="list-style-type: none"> ・R5.6.26 令和4年度事業報告及び決算報告、理事・監事選任
運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成部会 ・安全衛生部会 ・権利擁護部会 ・リスクマネジメント部会 ・地域部会
虐待防止・ 身体拘束 適正化委員 会	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向け権利擁護アンケートの振り返り ・車いすのシートベルト及び施錠対応に関して ・支援における迷い、グレーゾーンと感ずること

6. 諸会議への参加

- ・長野県自立支援協議会 就労支援部会
- ・長野市ふくしネット(しごと部会、かつどう部会、こども部会、相談支援事業所連絡会)
- ・千曲坂城福祉ネット(しごと部会)
- ・須高自立支援協議会(しごと部会)

7. 苦情受付

件数	2件
----	----

主な内容、分析

【苦情の分類】 職員の対応について
 個人情報取得、言葉遣いについて。言い方や伝え方について。
 ⇒いずれも検討の結果、担当の交代ということになりましたが、そこから学ぶべき点は、学び、今後の支援に活かせるよう情報共有を行いました。

8. 虐待事案

件数	0件
----	----

虐待防止対策マニュアルに基づき、全職員向けの研修の実施、虐待防止対策委員会の定期開催を行いました。
 県外で実際に起こった事例を元に話し合いを行い、迷ったことは長野市虐待防止センターに問い合わせをしました。

令和5年度 業務報告		社会福祉法人ともいき会		
部会名		権利擁護部会		
業務目的		<p>○福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に掌握検証し、適正な業務運営を進めます。</p> <p>○権利擁護部会では、障害者の虐待防止の啓発及び研修を進め、障害者の人権の尊重や権利擁護の具現化をすること、並びに利用者に安心と安全を提供するサービスの質の向上を目指した活動を展開します。</p>		
業務実施内容	<p>○6月職員研修(全職員を対象に実施) 令和5年度より、身体拘束適正化委員会の設置、身体拘束適正化のための指針の作成が義務付けられた。それに伴い身体拘束適正化のための指針の周知及び身体拘束の基本的なところから研修会としてお伝えしました。特に、支援の中での何気ない行動の中にも厳密にみた際に身体拘束にあたってしまふ点がある等、気を付けなければならないことも多くあり、継続的に意識の向上をしていく必要があると感じました。</p> <p>○職員による外部研修への参加 ①令和5年度第1回障がい者虐待防止・権利擁護研修会 東部文化ホール 3名参加(徳永、南沢、宮澤) ②障害福祉サービス事業所管理者向け権利擁護研修 Zoom 8名参加(各管理者+玉井) ③内閣府 改正差別解消法について Zoom 2名参加(通澤、宮澤) ④令和5年度第2回障がい者虐待防止・権利擁護研修会 Zoom 2名参加(高倉、丑山)</p> <p>○苦情の吸上げに関して 「苦情」=「ミス」や「怒られる」等のマイナスイメージが強いことから、ご意見としてあったとしても周知されづらい印象がありました。まずはミーティングの中で、「困ったこと」や「こんな要望があった」等をあげていただき、管理者判断において運営会議での共有の有無をしていくこととしました。</p> <p>○啓発活動に関して 2月にセルフチェックリスト+権利擁護アンケートを実施。セルフチェックリストは提出はなしで自身の振り返りとして確認をしてもらいました。権利擁護アンケートは、昨年同様に自分の支援の振り返りと他の職員についてまで記載をお願いし、匿名で提出をしていただきました。中でも多かった回答として、「何とも言えない」に○をしてある回答について、詳細が記載されていないため、「それが虐待にあたるのか分からない」のか、「他の人の様子を見ていないから分からない」なのか、「言いづらい」ため○だけをしている状態なのか等、今後の課題として対策の検討が必要だと感じる結果となりました。風通しの良い法人とは何か、再度考え、法人全体が意識を高めていけるよう努めていきたいです。</p> <p>○虐待防止委員会との連携 昨年度のアンケートを受けて、委員会での検討事項の提起、虐待関連のニュース等の周知を行いました。</p> <p>○権利擁護の理解を深めるに当たって これまで「権利擁護」=「虐待防止」、「身体拘束適正化」等の法人理念を遵守し、利用者を守ることの視点で研修を実施し、周知を行ってきました。「虐待」が発生する過程において、職員の負担やストレス、保護者からの苦情に繋がらないように過度に意識をしてしまうこと等職員側を守る視点について不足していたと感じました。どちらかだ上、下ではなく、「はたらく」を支えるための関係性について今後の権利擁護部会においても、再度考えていけたらと思います。</p>			
	年間取組	月	取り組み	月
	4月	職員研修に向けて資料作成①「身体拘束とは」	10月	苦情・ご意見の吸上げに関する検討
	5月	職員研修に向けて資料作成②「身体拘束とは」	11月	権利擁護研修参加報告 次年度の研修に向けての検討
	6月	職員研修会 ①第1回虐待防止権利擁護研修会	12月	
	7月	職員研修会 職員研修会の振り返り	1月	本年度活動振り返り 次年度事業計画
	8月		2月	アンケートの実施に向けて 「職員の権利擁護」について
	9月	苦情・ご意見の吸上げに関する検討	3月	アンケート集計・業務報告作成 職員研修に向けて

令和5年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		安全衛生部会			
業務目的		<p>○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人内の業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。</p> <p>○各部署に適宜情報発信・助言が出来るように、部会員一人ひとりが防災、感染症等について知識を深めスキルアップを図ります。</p> <p>○利用者、または保護者が安心して利用できるように法人設備の管理を行います。</p>			
業務実施内容	業	<p>○防災訓練の実施</p> <p><地震⇒火災>…本部は消防署の立ち合い有り。</p> <p>・6月5日(月)AM:本部、PM:放課後/6月7日(水)PM:就労、中御所</p> <p><地震></p> <p>・11月6日(月)AM:本部、PM:放課後/11月29日(水)PM:就労、中御所</p> <p><水害>…避難場所への避難・図上訓練(法人研修にて)</p> <p>・災害備蓄品の確認</p> <p><不審者></p> <p>・法人研修にて、不審者対応確認</p>			
	務	<p>○法人設備の管理(安全点検)</p> <p>・5月・11月実施。</p> <p>○啓発活動</p> <p>・感染症状況の把握、感染症・天候等の配信。</p> <p>・安全点検の際、救急セット・ノロウイルス対策セットの点検・補充も併せて実施。</p> <p>・インフルエンザ予防接種の推奨。</p> <p>・安全運転啓発として、70歳継続雇用研修(生活介護ドライバー)の推奨・実施。</p>			
実	施	<p>○福利厚生</p> <p>・職員に予防接種費用2,000円の補助を実施。</p>			
	内	<p>○職員のスキルアップ</p> <p>・感染症等の対応</p> <p>・防災訓練について(訓練)</p> <p>・AED講習と応急処置の具体的方法について(新人スタッフ対象)</p> <p>・法人全体研修「BCP計画とは?ハザードマップ(図上訓練)、防災防災について」1月に実施。(全職員対象)</p>			
容	○研究活動	<p>・非常災害対応資料・災害時緊急連絡網の整備・作成</p> <p>・BCP計画の策定</p> <p>・外部研修参加「福祉・介護事業所BCP策定セミナー」</p>			
	○今後の検討事項	<p>・部会員の研修(応急手当普及員講習)への参加、職員への周知。</p> <p>・各種マニュアルのスタッフへの周知。</p> <p>・感染症に関する研修の実施(年2回)</p> <p>・感染症対策委員会との連携。</p> <p>・防犯に関する研修の実施。</p>			
年間取組	月	取組み	月	取組み	
	4月	年間計画の確認、各種マニュアル整備、BCP計画、感染症対策見直し	10月	各種マニュアル見直し、ドライバー講習、BCP計画	
	5月	法人設備安全点検、避難訓練計画、感染症対策見直し、BCP計画	11月	避難訓練実施、振り返り 法人設備安全点検、感染症啓発、BCP計画	
	6月	避難訓練実施、振り返り、新人研修、BCP計画	12月	避難訓練、振り返り、感染症啓発(予防接種の推奨) 法人全体研修計画	
	7月	法人全体研修計画、BCP計画	1月	感染症啓発、法人全体研修実施「BCP計画とは」、水害図上訓練、防犯について	
	8月	避難訓練計画、防犯について、BCP計画	2月	次年度部会活動計画の作成	
	9月	BCP計画	3月	今年度の部会活動まとめ、次年度の研修について	

令和5年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		リスクマネジメント部会			
業務目的		<p>○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。</p> <p>○リスクマネジメントを通して、法人コンプライアンスの遵守等、職員への啓発と共に、利用者に安心して利用していただくために、安全と的確なサービスの実施に努めることを目的とします。</p>			
業務 実 施 内 容	<p>○所属部会員におけるリスクマネジメントの実施と把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット: スタッフ間で主体的に声がかかるような雰囲気作りやアセスメントを丁寧に行うことで、記録用紙への記入が定着しつつあります。また、同じような事例が多く出ているため、部署の中で傾向と対策について話し合い、事故に繋がらないよう意識を高めていきます。 ・事故報告書、モニタリング: 事故発生後に原因分析、対策を検討することで、様々な視点や気づきがあり、意識の向上に繋がりました。引き続き、意識を継続し、対策の日常化できるよう取り組んでいきます。 <p>○定期部会における現状把握と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故対策委員会を開催する事案はありませんでした。 ・事故報告・ヒヤリハットの内容確認を行い、俯瞰的な視点で対策・検討をしました。他部署の事例についても、理解を深められるよう分かりやすく周知しました。 <p>○部会員によるリスクマネジメントの学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントに関する目的、役割、実施手順について確認をしました。 ・リスクマネジメントセミナー(現場編・管理者編)に参加し、業務マニュアルや手順書の大切さ、記録の書き方や契約時の注意事項などについて学びを深めることができました(7月～10月)。 ・法人全体研修として危険予知能力、要因分析力の向上の為、「KYT危険予知訓練」を実施しました。 <p>○リスクマネジメントにおける啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な啓発活動を行う事で、ヒヤリハットの報告も定着してきました。月によりばらつきもある為、今後も継続した啓発を行っていきます。 ・他部署の事故報告書は回覧をし、部署内で類似する事故に関してはミーティングで周知を行いました。 ・5月に業務におけるチェックリストを実施し、リスクに対する意識を高めました。 <p>○個人情報保護に対する予防と対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストに個人情報関連の項目を増やして修正を行い、実施しました。職員の個人情報の取り扱いについて見直す事が出来る機会になりました。 ・安全管理措置について検討し、理解を深め、まとめを行いました。 				
	年間 取 組	月	取り組み	月	取り組み
	4月	事故・ヒヤリハットの把握、分析、モニタリング。 チェックリスト内容の確認と修正。 今年度の活動について	10月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 法人研修検討(月2回実施)。 外部研修参加。	
	5月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 安全管理措置、KYTの検討。 チェックリストの実施。	11月	法人研修実施。	
	6月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 安全管理措置、KYTの検討。 チェックリストの振り返り。	12月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 法人研修のまとめ(振り返り)。 外部研修報告。	
	7月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 安全管理措置、KYTの検討。 外部研修参加。	1月	ヒヤリハットの把握、分析。 次年度部会活動計画の作成。	
	8月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 KYTの確認。 法人研修の内容検討。外部研修参加。	2月		
	9月	事故・ヒヤリハットの把握、分析、モニタリング 法人研修検討。 外部研修参加。	3月	事故・ヒヤリハットの把握、分析。 今年度の部会活動のまとめ(業務報告)。	

事故報告分類・分析

1.事故報告月別件数

部署	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童		1		2		1			1	1		1	1	8
放課後		1				1		1		2				5
キャリアサポ			2			2								4
生活			1			3				2		1		7
相談														0
就労												1		1
就業・生活												1		1
件数		2	3	2	0	7	0	1	1	5	0	4	1	26

2.分類別事故報告件数

分類	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
怪我		1	1	2		2				1				7
熱傷														0
誤嚥														0
異食														0
薬														0
対人			1			1				1				3
物損			1			1				1				3
紛失									1					1
車輛関係				1		2						2		5
情報管理								1		1			1	3
その他		1	1			2				2		2		8

その他内訳 送迎忘れ(時間間違い)5、閉じ込め、商品誤出荷2、トイレ詰まり

※分類別事故報告件数は分類が複数にわたる場合がある為、事故報告件数とは一致しません。

3.内容、分析

R4事故報告件数	年間件数	20 件	R4ヒヤリハット	年間件数	358 件
R5事故報告件数	年間件数	26 件	R5ヒヤリハット	年間件数	354 件
部署別内訳					
発達児童	8 件	怪我2件、書類入れ間違い2件、倉庫施錠による閉込1件、車輛怪我1件、紛失1件、車輛物損1件			
発達放課後	5 件	送迎忘れ3件、LINE誤送信1件、対人怪我1件			
キャリアサポ	4 件	車輛物損2件、送迎時間間違い1件、物損1件、			
生活	7 件	対人怪我2件、物損2件、誤商品出荷1件、送迎忘れ1件、トイレ詰まり1件			
相談	0 件				
就労	1 件	未完成商品出荷1件			
就業・生活	1 件	車輛物損1件			

○分析

・事故報告年間件26件のうち、怪我が最多の7件(うち、対人同士の怪我は3件)となっています。車輛物損関係の事故報告は今年度4件でした。部署により事故分類で特徴が出ています。また、過去に遡ると類似の案件も見られることから、意識、対策面での継続と見直しの必要性を感じました。

・サービス利用中における、事故発生時の行政への報告義務による報告は、8月児童発達で、ビニールプールへの飛び込みによる怪我の受診で1件ありました。

・発生した事故に関しては事故報告書として作成し、発生状況、要因暫定対策等を確認しリスクマネジメント部会にて定期的な見直し、恒久対策までの確認を行いました。

・ヒヤリハットの年間件数は354件でした。内容によってはモニタリングを行い、対策の実施と効果の確認を行いました。内容、対策の共有と記入に対する意識継続の為に、啓発を続けていきます。

令和 5年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		人材育成部会			
業務目的		<p>○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に把握検証し、適正な業務運営を進めます。</p> <p>○法人職員の研修事業を中心とし、質の向上のために要求されるスキルを身につけると共に利用者や法人に貢献できるようスタッフの育成を目指していきます。</p>			
業務 実 施 内 容	<p>○法人内研修 (職員全体研修) 【実施期間】 ①権利擁護部会:6月、②リスクマネジメント部会:11月、③安全衛生部会:1月、④人材育成部会:R6,2月 【実施内容】人材育成部会:新人職員1名が年間を通して一研究に取り組み、事例発表を行いました。 また、他新人職員2名は『1年を振り返って』をまとめ発表を行いました。併せて、『良い所表彰』を実施しました。 *全体集合型ではなく部署ごとや午前・午後などでグループ分けをして実施することが定着しており、多くの職員が出席することができています。今年度は、各部会に計画～運営まで取りまとめてもらい、スムーズに研修が行われました。 今年度は欠席者のための研修を撮影し、後日ミーティングや個別で観て頂きました。</p> <p>(法人全体研修) ・外部講師を招いての研修(1回) ○ R5年 12月6日(水)16:00～17:15【講師】長野地方法務局 人権擁護課 課長 神津哲也 氏 【研修内容】『職員におけるハラスメント対策について』 *ハラスメントの定義や種類について学び、カスタマーハラスメントの説明をお聞きし、その対応について学びました。 ○ R6年 2月21日(水)16:00～17:30【講師】竹重病院 作業療法士 近藤優樹 氏 【研修内容】『発達の子になる子への支援(幼児)』 *作業療法士の観点から幼児期の支援についてのノウハウ等をお聞きしました。</p> <p>(新人職員に向けての研修) ① 新人職員研修(4月、12月) 4名 法人の理念や各センターの役割について学びました。 ② 新人職員及び2年目以降の職員へのOJT研修(随時予定) 【対象者】 新人職員3名実施しました。</p> <p>(各種研修) ① 職員面談 年3回(5月、10月、2月)実施しました。 ② 派遣研修及びリモート研修 ・圏域内や県外の研修、セミナーへの参加(派遣型、リモート参加等)、資格更新研修等受講 県外:4名、集合型:11名、県内外(オンライン):29名、資格更新研修(オンライン):6名 計50名受講</p> <p>(その他) ① 広報誌発行 : 内部向け:1回、外部向け:1回</p>				
	年間 取 組	月	取り組み	月	取り組み
	4月	・部会の目的、業務内容の確認。 ・研修把握、法人全体・派遣研修、職員面談について	10月	・第3回職員研修(10月～11月) ・職員面談	
	5月	・職員OJT研修計画、調整 ・法人全体研修①(外部講師)計画 ・職員面談	11月	・第2回職員研修 ・福祉の現場説明会	
	6月	・第1回職員研修 ・職員OJT研修(随時)	12月	・第3回職員研修 ・法人全体研修①(外部講師)	
	7月		1月	・法人全体研修②(外部講師) ・部会振り返り、次年度活動計画作成 ・職員面談	
	8月	・職員研修、派遣研修等 中間まとめ	2月	・第4回職員研修 ・次年度部会活動計画の作成	
	9月		3月		

研修の状況

○外部研修

月	人数	内容	人数	内容
5月	(オンライン) 3	障害福祉サービス従事者新人研修		
6月	(オンライン) 1	サビ管・児発管実践研修		
7月	(オンライン) 1	強度行動障がい支援者養成研修 (基礎研修)	2	がんばる新入社員のためのメンタルヘルス とコミュニケーション
7～8月	2	就業支援基礎研修	(オンライン) 1	リスクマネジメントの概念と必要なツール (現場編)
8月	1	福祉・介護事業所BCP策定推進セミナー		
8～9月	(オンライン) +県外 1	JC-NETジョブコーチ研修		
9月	1	ペーパードライバー講習	(オンライン) 2	相談支援従事者現任研修
9～10月	(オンライン) 1	リスクマネジメントの概念と必要なツール(管理編)		
10月	1	長野市相談支援専門員 スキルアップ研修	1	発達障がい支援者研修会(第2回)
	1	長野県自立支援協議会フォーラム		
11月	1	長野市相談支援専門員 スキルアップ研修	(県外) 1	全国就業支援ネットワーク定例研究会・研修 会
	(オンライン) 9	第1回長野市虐待防止・権利擁護研 修会(管理者)	(オンライン)1	南関東ブロック経験交流会議
	1	地域課題ワーキング		
12月	(オンライン) 1	就労事業所からの一般就労への在 り方を学ぶ研修会	(県外) 1	就労支援フォーラムNIPPON2023
	(オンライン) 1	視覚障害者生活支援研修会		
R6.1月	(オンライン) 1	障害のある人の質の高い就労生活 を実現するための就労定着支援セミ ナー	1	精神保健相談支援者研修会
2月	(県外) 1	第10回障害者就業・生活支援センター事業をより深く考えるための全国フォーラムIN八王子		
3月	(オンライン) 1	定着支援地域連携モデルに係る調査事業報告セミナー		

○内部研修

4月	2	新人研修		
5月	全職員	職員面談①		
6月	全職員	全体研修『虐待防止マニュアルに関する 勉強会』	2	新人スタッフ OJT研修
10月	全職員	職員面談②		
11月	全職員	全体研修『KYT(危険予知訓練)トレーニング』		
12月	2	新人研修	全職員	職場におけるハラスメント研修
	全職員	職場におけるハラスメント研修		
1月	全職員	全体研修『BCP計画とは?』		
2月	全職員	職員面談③	全職員	発達障害の理解と支援
2月	全職員	職員研修『新人発表、良い所表彰』		

令和5年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		地域部会			
業務目的		<p>○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人内の業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。</p> <p>○地域を知り地域のニーズをより深く知ることで、法人として取り組めそうなことを検討し、内外に発信することで篠ノ井地区の住民として、また、地域づくりへの一助として参画していきます。</p>			
業務実施内容	<p>○地域のニーズを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠ノ井住民自治協議会、地域包括支援センター、篠ノ井商工会議所訪問 ・地域連携会議への参加 ・地域包括ケア推進協議会・地域助け合いコーディネーターに篠ノ井地区のニーズについて協議 ・篠ノ井地区の社会福祉法人との連携方法の検討 <p>○篠ノ井びんずるへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともいき会」として篠ノ井びんずるに参加 <p>○新規施設整備、1階の活用方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所 ワークハウスYUI(おにぎり、) ・地域資源 食の森ひつじ(にらせんべい)、だがし家らそ(駄菓子) ・長野保健所を訪問 食品衛生管理について ・利用者の居場所、地域のコミュニティスペースとしての活用方法の検討 <p>○外部研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉ネットワーク会議「人口減少時代の地域づくりを考える」 <p>○今後の検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業1階の活用方法の検討 ・篠ノ井地区のニーズを把握し、法人としてできそうなことを関係機関・法人内に発信 ・ホームページ・広報誌での発信 ・篠ノ井びんずる⇒「篠ノ井地区福祉連」としての参加 ・篠ノ井地区のイベントについての情報収集 				
	年間取組	月	取り組み	月	取り組み
	4月	・今年度の取り組みについての協議	10月		
	5月	・住民自治協議会訪問	11月	・新規事業1階の活用方法の検討	
	6月	・篠ノ井びんずる参加打ち合わせ	12月	・商工会議所訪問 ・事業所訪問	
	7月	・地域包括支援センター訪問 ・篠ノ井びんずる説明会・篠ノ井びんずる参加	1月	・新規事業1階の活用方法の検討	
	8月		2月	・保健所・事業所訪問 ・地域福祉ネットワーク研修の参加 ・次年度業務計画の作成	
	9月	・新規事業1階の活用方法の検討	3月	・次年度事業計画・今年度業務報告の作成	

1 事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。
2 事業内容	障害児通所支援 ○児童発達支援
3 事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00
4 職員体制	管理者・児童発達支援管理責任者1名、保育士4名、音楽療法士1名、指導員1名

事業目標	実績報告	実施月
1. 一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○保護者の想いをお聴きし、本人の様子と照らし合わせた個別支援計画を作成し支援しました。 ・日々、利用者の様子を記録し振り返り、保護者の方の要望に基づき必要に応じて計画の見直しや検討を行いました。 ・支援会議・面談の資料を共有し、支援の参考にしました。	6か月ごと (随時)
	○得意なことや出来そうなことに着目し、「できた！」という自信を高め、新たな事柄へ挑戦する意欲を育みました。 ・本人が出来るものや出来そうなものを基本に、アセスメントを取りながらステップアップが出来るよう設定しました。	通年
	○一人ひとりの想いに寄り添い受けとめながら、気持ちに折り合いを付けることが出来るような手立てや、困り感の表出の仕方、解決方法を探り実践しました。また、相手の気持ちを想像し、その場にふさわしい言動が出来るよう、経験を積みました。	通年
2. 将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実させていきます。	○季節に合わせた活動・社会性を学ぶことが出来る活動を計画しました。 ・地域のスーパーでの買い物学習、施設内で疑似体験としてのお買い物ごっこ、公共交通機関を利用しての外出学習等の社会体験を企画し、楽しみながら学ぶ場を設けました。	通年
	○就園・就学を意識し、朝の会の課題や活動を通して、着席行動で最後まで取り組む力、相手に伝える力を付けました。また、集団の中での活動を意識することが出来るよう支援しました。	通年
	○一人ひとりに合わせた表現方法でやり取りをすること、伝わることの楽しさを感じる事が出来るよう支援を行いました。	通年
	○プチ縁日は他部署に協力していただきながら、放課後等デイサービスや就労支援センターの利用者・他部署のスタッフと交流することができ、良い経験が出来ました。 ・消防署見学をし、「はたらく」を身近に感じてきました。	随時
3. 保護者、関係機関との連携を強化します。	○連絡ノート、送迎時、必要に応じて保護者参観・面談を行い、情報の共有や課題の解決策など、連携を図りながら支援の参考にしました。	通年
	○支援会議への参加、併用先の園に訪問し、情報共有や課題の確認をし、支援の方向性を統一しました。	随時
	○自立支援協議会(こども部会)に、参加しました。	随時
	○年長児保護者と面談、特別支援校の見学・体験の案内をしました。	随時
	○放課後等デイサービス説明会と併せて保護者会を実施しました。 ・保護者の悩みや困り感に対する学びの場になりました。	12月

4.職員の支援技術の向上を目指します。	○部署内でミーティングやケース検討を実施し、利用者の様子・課題の共有や対応の仕方の統一等、支援の向上を図りました。	月2回
	○ヒヤリハットの報告書の記載、事故報告の検証を行い、再発防止に努めました。	随時
	○法人研修・外部研修・部会に参加し、支援技術・意識の向上に努めました。 ・障がい福祉サービス従事者新人研修・メンタルヘルスとコミュニケーション研修・こども部会研修他。	随時
5.新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○関係機関にパンフレットの配布・補充を行いました。(保育園・幼稚園・医療機関・相談支援事業所・療育コーディネーター等)	随時
	○関係機関との情報共有と情報発信を行い、新規利用に繋がるよう努めました。	随時
	○ホームページに行事の実施報告や新着情報を掲載し、活動内容を公表しました。 ・サービスの質の向上を目指し、自己評価の掲載を行いました。	随時
6.地域の方々に知っていただけるよう発信をしていきます。	○買い物学習では地域の商店に出向き、交流を図りました。	随時
	○ホームページに行事の様子を定期的に掲載しました。	随時

(児童発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
R03	年度	25	6	6	6	7	10	1799	76.6%
R04	年度	29	4	12	6	7	12	1719	70.9%
R05	上半期	25	1	5	13	6	5	998	83.0%
	下半期	29	3	7	15	4	4	983	82.0%
	年度	29	3	7	15	14	9	1981	82.5%

○分析

○3月末、29名の登録。
 ○感染防止対策を行いながら公共の場での活動や公共交通機関の利用を再開しました。
 ○療育コーディネーターの紹介での見学・体験、新規利用への流れが主。今年度は半年以上、待機していただくケースもありましたが、令和6年度からの利用も含め、3月末現在、全員が利用に繋がりました。待機している間に待機児童の状況の変化が見られ、すぐにご利用いただくことが出来ないもどかしさを感じました。
 ○9割以上が保育園・幼稚園を併用しており完全移行を目標としているため、振替を希望する方が皆無でした。
 ○登録人数が増え稼働率も上がりましたが、今後も園行事・リハビリ等での欠席も多いと予測できます。また、令和6年度は年長児が半数を占め年度末にサービス終了となるため、療育コーディネーター等と連携し、新規利用者受け入れのための宣伝活動を行い、利用者の確保に努めていきます。

2. 連携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園 移行(増日含む)
R03	年度	34	8	16	4(完全移行1)
R04	年度	57	13	19	10
R05	上半期	32	4	34	7(完全移行1)
	下半期	38	6	14	5(完全移行1)
	年度	70	10	48	12(完全移行2)

連携先

○福祉(南部相談支援センター、北部相談支援センター、千曲坂城基幹相談支援センター)
 ○教育(各幼稚園・保育園・認定こども園、特別支援学校、各小学校、教育センター)
 ○医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、東長野病院)
 ○行政(長野市(こども総合支援センター、こども相談室、保育・幼稚園課)、保健所、各保健センター)
 ○その他(保護者、親戚)

○分析

○感染防止対策を行いながら、園訪問・関係者会議を行うことで連携を図っています。コロナ禍に比べ件数が増加しています。
 ○園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には園開放等の情報提供をし、希望する園との支援会議を行い就園のお手伝いをしました。
 ○利用までの待機期間が長くなっていることで、保護者の方が必要としている時期に利用が出来ず、児童の状況が変化しているといった事例がありました。園への移行はもちろん、保育所等訪問のサービスの再開など今後、課題になると思われます。
 ○関係機関と連携を図りながら、保護者の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、令和5年度は12名の児童が園の利用日数を増やし、また2名が完全移行となりました。児童により利用の頻度は様々ですが、児童の様子を観察し園と連携を図りながら完全移行を目指していきます。

1 事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることのできる力を育めるような支援をしていきます。
2 事業内容	障害児通所支援 ○放課後等デイサービス 地域生活支援事業 ○自立サポート、タイムケア
3 事業概要	放課後等デイサービス 開設時間平日8:30～18:00 サービス提供時間15:00～18:00 定員10名 休日8:30～18:00 サービス提供時間9:00～15:00 タイムケア・自立サポート
4 職員体制	放課後等デイサービス 管理者・児童発達支援管理責任者1名、保育士3名、音楽療法士1名、 児童指導員3名 地域生活支援事業 指導員等15名(非常勤職員)

事業目標	実績報告	実施月
1.利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○個別や集団の活動の中で、個別の目標や課題の達成が出来るよう、手立てを考えながら個人の特性に配慮し、寄り添う支援を行いました。	通年
	○本人や家族の想いと個別の教育支援計画や障害児利用計画を基に、個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援を行いました。	随時
	○日々の様子や個別支援計画に対する過程や達成状況を記録し、記載内容をスタッフ間で確認しながらモニタリングを実施しました。	随時
2.将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○新型コロナウイルスが5類移行後は活動内容や感染対策を見直し、活動を実施しました。 ・外食活動、南条区不動尊縁日、篠ノ井祇園、篠ノ井高校文化祭外出等。	通年
	○季節に合わせた活動、またお金の計算ややりとり、ルールやマナー、集団での動きを学べる活動を計画し、体験、実施しました。 ・クラブサンズ等(苺狩り、バーベキュー、海水浴、初詣、カレンダー製作等)。 ・ウィズふぁーむでは、枝豆、オクラ、ミニトマト、保護者からいただいたきゅうりや花(水仙、ムスカリ)を栽培しました。土づくりから、種まき、水やりを行い、収穫後、流しそうめんやバーベキュー、お弁当作り体験後にいただきました。 ・月1回程度体育館活動を取り入れ、他部署と交流しました。	随時
	○他部署の活動や就労体験、作業体験に参加しました。 ・児童発達プチ縁日、生活介護流しそうめん、キャリサボ富山バスツアー、マルコメ味噌見学、駄菓子購入。 ・一般社団法人あいわーくすにてねぎの収穫体験。 ・学校休業日の利用者を対象に袋詰め、消毒作業、紙ちぎり。	随時
3.保護者、関係機関との連携を図ります。	○保護者と日々の様子や連絡調整、学校や関係機関と情報共有を行いました。 保護者とは送迎や会議、また電話連絡にて日々の様子や計画の見直し、モニタリングを保護者や利用者の思いを確認しながら共有しました。 ・保護者面談の機会はありませんでした。面談に関しては、更新の会議等と重なる為、その際に詳しい様子をお話しています。 ・学校での引き渡しの際や、参観、電話、支援・関係者会議等で随時情報共有を行っています。日頃の様子その他にも課題や目標、支援方法等の確認、統一を図りました。	随時
	○長野市子ども部会(学齢期支援連携会議)、長野市南部地域グループワーキングに参加し、課題の検討やケースワーク、情報の共有を行いました。	随時

4.職員の支援技術の向上を目指します。	<p>○ミーティングで情報共有や支援についての意識の共有・強化を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に個別支援計画のモニタリング、計画の見直しを行いました。 ・各種会議の内容報告、個別ニーズの確認、活動内容の検討(担当制)、振り返りを行いました。 ・必要に応じて随時、口頭又はLine等で共有を行っています。 	月2回
	<p>○ヒヤリハット、事故報告書の記載を行い、必要に応じてモニタリングを実施しました。回覧やミーティングで事案を確認し、対応の検討し実施をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の安全安心対策事業による安全計画の策定、車輻に取り残し防止ブザーを導入しました。 	随時
	<p>○法人内の部会研修、外部研修に参加し、部署で内容を共有しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障がい支援者養成研修、リスクマネジメントセミナー管理編、障害者虐待防止・権利擁護研修等。 	随時
5.新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	<p>○相談支援専門員、関係機関と連絡を取りながら、空き情報等の提供、相互に学校や事業所の見学を行いました。</p>	随時
	<p>○長野市南部地域合同説明会に参加し、事業所の概要や活動内容の説明を行いました。また、児童発達年長児を対象とした説明会を開催しました。</p>	6月・12月
	<p>○連絡事項や活動を知っていただく為に定期的にお便りの発行し、季節ごとに活動報告を作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告についてはホームページに掲載を行いました。 	4・6・9・11・2月
	<p>○保護者アンケートの実施と共に、事業者評価表を基に現状の確認と改善検討を行い、ホームページへ掲載を行いました。</p>	11月～2月

(放課後別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
R03	年度	38	24	9	5	4	2589	84.3%	24
R04	年度	37	25	7	5	5	2415	75.9%	23
R05	上半期	39	23	10	6	6	1242	81.5%	23
	下半期	39	23	10	6	1	1297	85.3%	23
	年度	40	24	10	6	7	2539	83.4%	23

2. 月別利用者

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日		25	27	26	26	23	26	26	26	25	24	25	26
延べ人数		183	208	216	212	209	214	224	204	224	213	210	222
大人利用者		145	144	146	152	123	145	135	141	133	123	132	129
稼働率		73%	78%	83%	82%	91%	82%	86%	78%	90%	89%	84%	85%

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
R03	年度	2	5	0	1	0
R04	年度	3	4	0	0	0
R05	年度	3	5	0	0	0

○分析

○新規利用者は、年間計7名(新1年生3名、年度途中1年生1名、他3名)でした。また、年度途中で利用終了の方3名でした。

平日は登録1日平均11.6名、土曜日は15名程度の登録(不定期含む)、1日平均11名の予約でした。

○登録利用者40名(途中退所の方含む)のうち、25名の約62%が稲荷山養護学校の生徒となっています。また、新規利用者7名のうち、6名が地域校の生徒で、地域校の生徒は12名の30%となっています。地域校生徒の利用は年々増加傾向となっています。

退所理由は2名の方が事業所の利用自体の終了で、最近では事業所自体の利用の必要性が無くなり終了する方も増えている傾向です。

○新型コロナが5月より5類引き下げに伴い、関係するキャンセルは減少傾向となりましたが、特に11月は新型コロナ、インフルエンザの罹患(家族含む)の方が多く稼働は下がりました。また、4月は新1年生の利用が5月GW明けからの利用という事もあり73%となっています。

4. 連携

		支援会議	関係先訪問
R03	年度	28	3
R04	年度	37	7
R05	上半期	19	5
	下半期	24	5
	年度	43	10

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育機関(各特別支援学校、各地域の小学校)、医療機関(稲荷山医療福祉センター、日本赤十字病院、竹重病院、栗田病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分析

○昨年に引き続き、6月に長野市南部事業所合同放課後等デイサービスの説明会を実施し1名の利用、保護者や学校の先生からの紹介で2名の計3名の新規利用に繋がっています。また、12月には児童発達利用の年長児を対象とした説明会を開催しています。

放課後等デイサービス事業所連絡会や、南部の放デイ事業所が集まるグループワーキングでは、事業所の取り組み紹介やケース検討、意見交換等を実施し連携を図っています。

今後も継続的に関係機関と情報交換を行い、事業所の特徴や空き情報等の発信を行っていきます。

○支援・関係者会議は、実施回数が増加しています。対面方式の他に、オンライン形式でも継続して参加可能となっています。各種会議については、本人の様子や検討事項、可能性、利用等についての確認、共有を行っています。また、学校で開催される会議は就学時間後の開催も多く、支援と重なってしまう為、書面のみで欠席となっている現状も何件か見られています。

○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活を送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1 事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます
2 事業内容	障害児通所支援 ○放課後等デイサービス ○自立サポート
3 事業概要	定員10人 平日 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 14:00～18:00 土曜・長期休暇 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 10:00～16:00
4 職員体制	管理者・児童発達支援管理責任者1人、保育士2人、児童指導員1人、音楽療法士1人

事業目標	実績報告	実施月
1.(利用に当たり) 利用者一人ひとりの想いを傾聴し、目標を明確にした利用ができるよう、サービスを提供します。 安心・安全に利用できるよう配慮します。	○個別支援計画作成に当たり、ご本人及びご家族より直接想いを聞きつつ、一人ひとりが目標を持って利用することができるよう努めました。	随時
	○必要に応じて適宜個別での振り返りを実施し、目標の確認をしながらモニタリングの実施に努めました。	半年ごと
	○事前の活動先の調査、学校での感染状況等を確認しながら安心して利用していただけるよう努めました。	通年
2.(生活スキルの向上) 利用者が自分らしく自信を持って生活していくために、出来ることを増やす支援をします。	○利用者の得手不得手を知り、その中で本人の力が最大限発揮しながら楽しめる活動の計画を意識して提供してきました。	通年
	○集団での活動を目標とし、本人も周りの人も気持ちよく過ごすための目標を立て、実践していきました。	随時
3.「働く」意欲の向上 将来、「働くことがイメージできる」支援を提供します。	○年間を通して、高校生向けの講座をプログラム化し、「働く」ために必要なことを伝えてきました。	1回/週
	○8月と3月に小中学生も含めた工場見学、夏休み中に高校生を対象とした体験実習を実施しました。	8月/3月
	○実習に当たり、事前学習会と事後学習会を実施し、働くことの責任と振り返りを行いました。	8月
4.(稼働率の向上) 新規利用者の確保及び、登録者1人当たりの利用日数を増やしていけるよう活動を展開します。	○日数の増加については保護者とも相談をしながら進めていますが、本人の意思として、現状のままの利用を希望される方が多いです。	随時
	○センターへの問い合わせのみが6件、見学及び体験が10件あり、体験の内4名の方が利用に繋がりました。	通年
	○移転について検討を重ねてきました。現状として長野駅経由での利用の高校生がいるため、引き続き、長野駅近辺での検討を続けます。	通年
5.(支援スキルの向上) 職員の支援技術及び資質の向上に努めます。	○毎月のミーティングで支援会議の報告及びその他必要な情報の共有・検討をし、支援の確認を行いました。	1回/月
	○新規の活動について、適宜スタッフ間で話し合い、より良い活動となるように創意工夫に努めてきました。	通年
	○講座について、これまで座学中心であったところを、ゲーム形式で実施する等、楽しく学ぶことを実践してきました。	通年
6.(ネットワークの構築) 保護者・関係機関との連携を強化します。	○送迎時の情報共有以外にも、必要に応じて、本人へのアプローチの前に保護者に連絡、相談をしました。	通年
	○長野市自立支援協議会執行部へ参加し、ネットワークの構築に努めました。	1～3回/月

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	平均稼働率
R03	年度	36	7	11	17	6	1403	48.1%
R04	年度	34	7	9	18	9	1441	49.3%
R05	上半期	28	6	9	13	2	665	45.3%
	下半期	28	9	8	11	2	684	46.0%
年間計・平均						4	1349	45.7%

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	29	29	29	30	29	28	28	27	27	27	27	28	
開所日	24	24	25	26	23	24	25	24	26	23	23	25	292
延人数 平日・休日	76 33	76 28	91 26	87 29	99 21	77 22	79 31	80 25	87 40	72 25	70 25	116 34	1010 339
稼働率	45%	43%	45%	46%	52%	41%	40%	44%	49%	42%	41%	60%	

○分析

○登録利用者について

令和5年度末の登録者数は28名でした。内新規利用者数は4名でした。4名の方が利用を停止しました。新規利用者の紹介経路として、学校の先生からの紹介が1名、相談支援専門員からの紹介が1名、病院からの紹介が1名、長野市委託相談員からの紹介が1名でした。

その他、問い合わせのみが6件、見学・体験が10件でした。利用に繋がらなかった主な理由として、保護者からの問い合わせがあったが、ご本人が不登校のため外に出ることが難しい場合や夕方の時間に完全に個別での対応を希望される等のサービスの提供自体が難しい場合等がありました。全体として、不登校や集団に馴染めないことでの保護者の困り感は強いが、子ども本人はサービスを望んでいない場合が多く、見学から先に進まないことが多い印象でした。

○稼働率について

小学生の利用については、当初に計画した通りに利用となるケースがほとんどですが、中学生や高校生に進学するに当たって、部活動やアルバイト、学校からの帰宅時間によって、利用が土曜日及び休業日のみとなっていくケースが多く見受けられました。そのため、平日は利用人数が少なく、土曜日や長期休業に利用者が多くなる傾向にあります。

また、利用者のほとんどが週1回の利用となっています。現状として、日数を増やすことで本人の負担となってしまうように保護者と相談をして利用日数を決めています。令和6年度に向けて、講座ではなく、お楽しみ活動を増やして、気軽に参加できる曜日を増やして参加がしやすいプログラムを目指します。

○10月に他部署と合同でバスツアーを計画しました。多くの方に参加をいただき、また次年度も開催してほしいとの要望も多数いただきました。色々な方との交流もできる良い機会でもあり、利用者も一緒に計画に参加してもらい、みんなで作り上げていく企画にしていければ良いと思います。

3. 連携

連携先

		支援会議
R04	上半期	17
	下半期	12
	計	29

(学校関係)長野養護学校、稲荷山養護学校、若槻養護学校、共和小学校、昭和小学校、通明小学校、山王小学校、三本柳小学校、篠ノ井西中学校、広徳中学校、櫻ヶ岡中学校、豊野高等専修学校、
(相談関係)長野市南部障害者相談支援センター、ブルースター、はぴねす安茂里、アネモネ、森と木、ながでんハートネット 等

○分析

○現状として、現在利用者があるかもしくはこれまで関わりのあった学校、病院、相談員等との連携が主でした。周知活動を実施しても、その時のみの関わりとなってしまう、新しい関係者との連携は築きづらい状況です。もう少し深い関係性を築き、「困ったときには相談をしてみよう」と思ってもらえる事業所を目指していきたいです。そのために、各関係者の困り感について話を聞き、どのようなことでお手伝いをすることができるのかを伝えていく動きをしていきたいです。

1 事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。
2 事業内容	障害福祉サービス ○生活介護事業
3 事業概要	生活介護 定員20名 開所時間平日 9:00～18:00 サービス提供時間 9:00～16:00
4 職員体制	管理者・サービス管理責任者 1名、支援員 9名、准看護師 1名、運転手 2名

事業目標	実績報告	実施月
1. 生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○利用者や家族との面談を通し、挙がったニーズや利用者の様子に対して支援の方向性を確認しながら個別支援計画の作成、モニタリング会議を行いました。	6ヶ月毎
	○利用者の1日の様子を日誌に記す事で家族と連絡を取りました。利用者の様子で大きな変化や気になる様子が見られた時は、電話やライン等で報告を行ない、状況の把握や今後の対応について保護者と共通認識を持つように心がけました。また、必要に応じて相談支援専門員と情報共有を行いました。	通年
2. 活動内容の充実を図ります。	○はたらくプログラムを実施しました。 ・法人外作業では、ズークの内職作業を積極的に請け負い、利用者の得意なことを生かして作業分担し進めていきました。事故やヒヤリハットの中から、再度資材表の作成や作業のポイントをまとめ、スタッフ間で共有を行いました。 ・利用者に合わせて工程を割りふる事で、各工程における作業を身に付ける事が出来ました。毎日の作業内容としても定着し、正確さがスキルアップしている様子が見られました。 ・あいわくすの古紙リサイクルでは、手作業やシュレッダーにて取り組みました。紙の仕分け方をスタッフ間で再度共有しました。利用者が取り組みやすい方法を検討し、上半期は紙にスタッフが切れ目を入れ事前の準備をしていました。下半期は切れ目を入れずに挑戦するアプローチを行なっていく中で、全ての利用者さんが作業に関わる事が出来ました。 ・ポスティングでは、紙面や配布日が月1回～2回と変更があり、企業と連絡を取り確認をしながら進めました。アパート清掃も6件請け負っています。 ・篠ノ井授産所から、作業協力の依頼を受け、取り組みました。 ・法人内作業としては、玩具の消毒、洗車、草取り、雑巾縫い等の作業を行いました。また、利用者写真に編集してもらい、お便りを6回発行する事が出来ました。	通年
	○くらすプログラムを実施しました。 ・更衣、準備、片付け、歯磨き、お手伝い等を通し、利用者に合わせて支援方法を変えながら、生活レベルの向上を目指しました。	通年
	○あそぶプログラムを実施しました。 ・近場でお花見等のプチ外出や味噌作り体験、流しそうめん、茶話会等の企画を行いました。 ・外出では、聖高原や県立美術館等、5回企画を行いました。8月以降は久しぶりの外食も楽しむ事が出来ました。 ・創作活動では、「廃材等の資源をなるべく使う」「身体を動かしながら楽しめる物を取り入れる」「誰かの為にできること」という3つのテーマを持って、にじみ絵やお花、段ボールフレームの制作等を行いました。 ・アート活動では月に1回講師を迎え、墨遊びや絵具、クレヨンを使い絵画を楽しみました。 ・「体操」のプログラムを「身体を動かそう」に変更し、ボッチャや風船バレーも取り入れ身体を動かす機会を増やしました。	6ヶ月毎

2. 活動内容の充実を図ります。	○土曜日開所は、6月は開所せず、平均4.4人の利用がありました。少人数で外出を楽しみました。	通年
	○健康管理については、毎日の検温、月1回の体重測定、保健だよりの発行を行ないました。利用者にいつもと違う変化がある時は、検温を行い発熱がある時は保護者へ連絡を徹底しました。早めの対応を取る事で体調の悪化を未然に防ぎ、サービス利用への安心に繋がるように心がけました。 ・感染症の罹患された方がいた場合は、換気や件音の回数を増やし利用者の体調の変化に留意し未然に集団感染を防ぐように務めました。 普段より食欲がない、動きがない場合は検温を行い、37.5度以上の発熱がある時には保護者への連絡を徹底しました。 ・外出の際には、散策をして体を動かす機会を作りました。熱中症に気を付けながら水分補給をする事はもちろん、過ごしやすい陽気の時には午後の活動の際にウォーキングに出掛ける事もありました。	通年
	○法人内の他センターと連携をすることで、活動の充実を図りました。 ・流しそうめんを実施し、発達支援センターの利用者にも楽しんでもらう事が出来ました。 ・児童発達のプチ縁日、キャリサポのマルコメ味噌見学、放課後の活動へ参加を行いました。 ・はたらくプログラムでは就労支援センターと協力、調整をすることで、役割分担をしながら作業を進めて行きました。	通年
3. 新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○実習生を2名(高等部2年生)受け入れました。また相談支援専門員から2名の相談、養護学校から4名の見学対応を行いました。 ・発達支援センターの利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらいました。体験日ではない日にも「手伝うよ」と声を掛けてくれる方がいて、はたらく姿を身近に感じてもらえる良い機会になりました。	通年
	○長野市障害福祉ネット「かつどう部会」へ2回参加しました。「生産活動と余暇のバランス」と「送迎」に関する議題で情報共有を行いました。	7月 10月
4. 職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故報告・気付きの中から、再発防止に努めるようにしました。 ○スタッフ間のミーティングでは、個別支援計画に対してのモニタリング会議や日々の支援の中で、気になった事や対応に迷うこと等を出し合いながら情報共有や支援の方向性を話し合う場を作りました。 ○てんかん発作時の対応についてケースを振り返りながら、スタッフに向けて発作時・救急搬送時について確認を行いました。	通年
	○他事業所への見学、サービス管理責任者実践研修へ参加をしました。また、支援会議に参加したことのない支援員も会議に参加する事で様子を知る機会を作りました。	通年

(生活別紙)

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
R03	年度	20	
R04	年度	21	
R05	上半期	21	1
	下半期	22	
	年度	21	

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
R03	年度	0	6	8	6	5
R04	年度	0	5	10	6	5
R05	上半期	0	5	11	6	5
	下半期	0	5	11	6	5
	年度	0	4	11	6	5

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
開所日	21	21	22	21	20	21	22	21	22	20	21	21	21
延人数	329	333	356	311	314	337	350	331	341	297	318	332	329
稼働率	78%	79%	81%	74%	79%	80%	80%	79%	78%	74%	76%	79%	78%

○分析

○20名の定員に対し22名の登録となっていますが、内1名が令和3年4月の利用を最後に継続して欠席をしているため、年度の登録者数を21名に変更しています。

・新規で4月から1名が週3回、他事業所と併用で利用開始となりました。

・R2名からコロナウイルス感染症のため利用自粛していた1名が7月から週1回、利用再開となり、3月からは週2回利用となりました。マスク着用と昼食時にパーテーションの使用または他の方と距離を取り、定期的な抗原検査を実施しての利用となっています。

・1名が毎月3日間欠席し短期入所と生活介護の利用をしています。

○月あたりの平均利用者数は15.7人となり、体調不良やコロナウイルス関係等、健康面の欠席がありますが、稼働率は前年度に比べて3%増えています。

○個別面談3件、電話面談8件、支援会議31件、区分調査8件を行いました。

○活動面については、利用者の人数や相性を考慮しながら取り組みました。グループに分かれた中でも情緒に応じて活動を切り替えウォーキングやドライブに出掛けたり、個別に対応する中で、利用者同士がお互いに安心して過ごす事ができるように活動を行ないました。

・外出活動は4グループで2ヵ月に1回、同じ月の中で計画をしてきましたが、スタッフの勤務都合もあり、同じ月での開催が難しい事もありました。無理なく安全に活動をする事を優先して計画を組み立てるようにしました。

・利用者スタッフ共に楽しいと感じられるような活動を実施できるよう今年度新たに企画係を作り、活動の充実を図りました。「楽しかった」「またやりたい」という利用者の声も聞かれました。

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加して行くことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。
2	事業内容	障害福祉サービス ○就労移行支援 ○就労定着支援 助成金・補助金 ○自立訓練(生活訓練)(R5.4～R5.12)○就労継続支援B型(R6.1～R6.3) ○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員:【R5.4～R5.12】 就労移行14名、自立訓練6名 【R6.1～R6.3】 就労移行10名、就労継続支援B型10名 開設日:月曜日～金曜日(平日)及び土曜日(1/月) 開設時間:8:30～17:30 サービス提供時間:9:00～16:00
4	職員体制	○管理者・サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員(就労移行)1名 (自立訓練)4名 ○職業支援員3名 ○定着支援員2名

事業目標	下半期実績報告	実施月
1. 一般就労を目指します (目標就職者7名以上)	【共通】 ○個別支援計画について ・2週間に1回振り返りを行い、ご本人が主体的に計画を立てられるよう一緒に考えました。素直な気持ちを伝えられるような雰囲気づくりを大切に振り返りを行いました。自分の強みや課題を知り、目標に向かって訓練に取り組むことができました。	2/週
	【就労移行】 ○就職に向けての準備について ・定着支援先企業と連携して、見学・体験を実施したり、学習会にて企業担当者や就職者から話を聴くことで、企業の生の声や先輩の働く姿に刺激を受け、働くイメージ作りができました。合同企業説明会に参加し、就職に向けての視野を広げたり、強みを活かせる仕事を自分で選び、積極的に見学や体験を行いました。	通年
	【就労移行】 ○就職者数 4名。	
	【共通】 ○定期的な支援会議の実施について ・3か月毎のモニタリングに合わせて、ご本人・保護者・関係機関と情報共有を図りました。事業所や家庭での様子、就職に向けての課題等について確認をし、安心して活動できる環境を共に作ることができました。	通年
2.【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を提供します	【共通】 ○施設外就労について ・老人ホームでの清掃やシーツ交換、金属加工会社にて製造に係る作業を行いました。一人一人に合わせた作業内容や工程を工夫し、個別のステップで自信をつけていけるよう支援しました。企業と連携し、作業計画や情報共有を行うことで、会社の一員としての自覚や働く力を身に付けていくことができました。	通年
	【共通】 ○新規実習先の開拓 ・定期的に利用者と一緒にハローワークに行き、求人検索や相談を重ねる中で、新規企業への問い合わせを積極的に行いました。ご本人の希望に合わせて、職種や環境を調整し、体験・実習を行いました。	通年
	【自立訓練、B型】 ○事業所内訓練の充実について ・他部署と連携し、お菓子のパッケージ作業やアパート清掃、ポスティングを行いました。また、松代金属からカギや取説の封入や緩衝材の作成、あいわくすからシードペーパーの封入作業を受注し、納期を意識した取り組みができました。 ・出勤日や活動内容をスタッフと相談しながら自分で決めたり、個々に合わせて作業手順を工夫し、成功体験を積み重ねていけるよう支援しました。また、安心して過ごせるよう出勤時にご本人の体調や気持ちを確認する時間を作りました。	通年

	<p>【共通】 ○社内学習会について ・土曜日開所を中心に学習会を行い、前年度の内容を見直してリニューアルしたり、新しい企画を開催しました。利用者一人一人がパワーポイントを使って資料を作成し、発表する機会を作りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くとは ・日常生活 ・防災について ・企業の方の話 ・履歴書の書き方 ・こんなときどうする？ ・食生活について ・挨拶・言葉遣い ・就職までの道のり(セルフプラン) ・お金の使い方 ・求人票の見方 ・面接の受け方 ・初詣 ・雛飾りづくり ・身だしなみ ・在職者の話 ・良いところ探し ・体を動かしてリフレッシュ ・絵馬を作ろう ・余暇の過ごし方 等 	毎月
3.【就労移行・就労定着】 就労後も安心して働き続けることができるよう、丁寧なフォローアップをします (目標定着率80%以上)	○企業訪問、面談等の定着支援について ・就職後は、他機関と連携を図りながら、安心して働くことができるよう支援しました。ジョブコーチ支援終了後、ご本人の希望に応じて、定着支援サービスによるフォローアップを行いました。悩みや不安がある時も、面談と合わせて電話やメールなどを活用しながら相談をし、離職者なく働き続けることができている。 ・過去3年間の定着率は93%となっています。 ○在職者交流会 ・4年ぶりに7月にホテルレストランでの会食、3月にラウンドワンにてオフ会を実施しました。初対面の方同士での交流もあり、楽しんで参加する姿が見られました。	通年
4.職員の就労支援技術の向上を目指します	○支援スキルの向上について ・毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタッフミーティングを実施し、日々の様子や課題、スタッフの関わり方などについて振り返りました。 ・職員全員がハローワーク同行、職場見学や体験など、就職活動に関する施設外支援に対応できるよう、段階的に経験する機会を設けました。	随時
	○外部研修参加について ジョブコーチ養成研修、就業支援基礎研修、障がい福祉サービス従事者新人研修、精神保健相談支援者研修等、新人～中堅職員を対象とした外部研修に積極的に参加しました。	随時
5.新規利用者の確保に向けた活動を展開します (目標年間平均稼働率80%以上)	○利用者確保に向けて ・相談支援事業所との連携や見学・体験の受け入れを積極的に行ったことで、就労移行6名、自立訓練1名、B型1名の方が利用に繋がりました。また、週3日利用からスタートした方たちも、徐々に自信を付けて週5日出勤できるようになり、就労移行の年間稼働率は90%となりました。	通年

(就労別紙)

1. 利用状況

		就労移行			自立訓練			就労継続B型		
		実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	稼働率
R03	年度	19	8	77%	7	4	45%			
R04	年度	25	14	92%	9	2	39%			
R05	上半期	19	5	95%	4	1	27%			
	下半期	19	6	86%	4	0	22%			
	年度	25	11	90%	4	1	25%	6	6	30%
								6	6	30%

2. 月別利用状況

就労移行		定員14名 (1月より定員10名)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	20	21	22	21	20	21	22	22	21	20	21	21	21.0
登録者	16	17	15	15	17	14	15	14	15	16	12	10	14.7
稼働率	103%	109%	95%	87%	95%	78%	87%	76%	78%	106%	88%	81%	90%
自立訓練		定員6名											
登録者	3	3	3	3	3	3	3	3	3				3.0
稼働率	19%	35%	35%	24%	20%	26%	22%	21%	22%				25%
就労継続B型		定員10名											
登録者										1	4	6	3.7
稼働率										9%	35%	46%	30%
就労定着													
登録者	12	12	11	10	9	10	11	11	11	12	12	14	11.3
利用者	11	9	10	9	5	9	6	8	8	6	7	12	8.3

3. 利用経路 ※()内自立訓練、就労継続B型

	市町村	就業・生活 支援センター	ハローワーク	医療機関	教育機関	相談機関	その他
上半期	0	5(2)	0	0	4	8(2)	2
下半期	0	2	0	0	0	1(1)	3(5)
年度	0	7(2)	0	0	0	9(3)	5(5)

※その他
「ウイズ内でのサービス
変更」

○分析

就労移行
<p>4月は16名(内新規2名)でスタートしましたが、見学者13名・体験12名の受け入れを行い、その内6名が利用、3名が次年度の利用に繋がっています。また、4名の方が就職し、B型希望者5名(内ウイズB型希望者3名)、就労アセスメントのみの利用者2名、体調不良などにより2名がサービス終了となりましたが、精神的な不調が続く方も、相談をしながらモチベーションアップを図り、稼働率は90%となりました。慌てずに自分のペースで就職を目指したいとB型へのサービス変更を希望される方が増えています。進路選択については、ご本人の想いを大切にしながら丁寧に相談を重ね、自己決定できるよう支援しました。1月より定員14名から10名に変更しています。</p>
自立訓練
<p>定員6名のところ、3名で活動をしてきました。在宅期間が長かった方が、自分で目標を立てながら、週5日半日安定して通えるようになり、素直な気持ちを伝えられるような関係を築いていくことで、緩やかに自信をつけていくことができています。ご家族・関係機関との連携や面談を丁寧に行うことで、少しずつ生活や体調の安定を図り、12月までの稼働率は25%となっています。(12月末に自立訓練を廃止しています。)</p>

就労継続B型

1月よりサービスを開始し、就労移行から2名、自立訓練から3名、相談支援機関からの紹介で1名、現在6名の方が利用となっています。生活リズムを整えながら週1日通所する方、67歳で週5日意欲的に作業に取り組む方、就職活動を積極的に行う方など、一人一人の希望に合わせて、自分らしい働き方を目指して活動しています。

就労定着

今年度は17名の方が利用し、内新規利用者5名となっています。在職者の方が講師となり、ウィズの利用から現在に至るまでの話をさせていただき学習会を行っています。ご本人にとっても自信に繋がる機会となり、堂々と話す姿に成長を感じました。また、4年ぶりにオフ会(在職者交流会)を2回実施し、レストランでの会食に23名、ラウンドワンのスポッチャに16名が参加し、近況報告や交流を深める様子がありました。意欲に波がある方も職場や関係機関と連携し、サポートを行い、離職者なく働き続けることができました。3名が3年の利用期間を終了してナカボツに引継ぎをしていますが、現在も安定して働いています。過去3年間の定着率は93%となっています。

4. 実習状況

		見学	実習	ジョブコーチ
R03	年度	20	10	12
R04	年度	18	9	9
R05	上半期	11	6	5
	下半期	12	5	3
	年度	22	11	8

見学及び実習先(職種)

(見学)

- ・コープ稲里店(品出し)
- ・長野リネン(クリーニング)
- ・JRCロジスティクス(資材のピッキング)
- ・CHU CAR box若槻店(洗車)
- ・梱包運輸(フォークリフト)
- ・テクノサーブ(清掃)
- ・クリーニングのクボタ(クリーニング)
- ・ロン都(商品管理・事務補助)
- ・花王ロジスティクス(ピッキング)
- ・新光電気(製造)
- ・厚生連松代総合病院(食器洗い)

(見学・実習)

- ・堀内精工(製造)
- ・テクノサーブ(リユース・清掃)
- ・カインエレクトロニクス(商品管理)
- ・日本無線(清掃・図書整理 等)
- ・ピップ物流(ピッキング)
- ・ウエルシア小森店(品出し)
- ・三和製作所(製造)
- ・シャトレーゼ(品出し)
- ・丸山精密(製造)
- ・西友伊勢宮店(品出し)
- ・サニウェイ(清掃)

○分析

年間計画に沿って、見学22件、実習11件実施しました。20代後半～50代の就職経験のある利用者も増えており、就職活動を活発に進めていく姿勢があり、見学や体験・就職につながりました。日々の活動だけではなく、職場見学・体験を重ねることで、利用者のやりたい仕事・合う職場を共に模索してきました。利用期間の終了と就職の両方を意識することで、不安を感じて不調につながるケースが多く見られたため、就職活動のタイミングや体験のみの経験を重ねるなど、利用者に応じて負担を軽減しながら、就職を目指していくことが重要と感じました。

5. 就職状況

		就職者数 ()内A型事業所	平均利用 期間	平均実習 日数	定着支援 利用者数
R03	年度	7	1年8ヶ月	12	16
R04	年度	5	1年9ヶ月	15	17
R05	上半期	3	1年6ヶ月	14	13
	下半期	1	9ヶ月	0	14
	年度	4	1年2ヶ月	14	17

就職先

- ・三和製作所(プラスチックの形成、加工)
- ・テクノサーブ(新光電気の子会社)
- ・シャトレーゼ(菓子類の製造・販売)
- ・長野市役所(郵便物仕分け、事務補助)

○分析

就労移行

ウィズでの活動や見学・体験を通して、好きなこと・やりたいことを見つけて、4名の方が就職しています。実習期間を利用し、仕事の適性や強みを活かせるよう職場の方と相談したり、課題として挙げた点については、ご本人と丁寧に向き合い、複数回実習を重ねるケースもありました。「実習⇒ウィズでの訓練⇒実習」と1年かけて準備をした方は、ご本人の努力と職場の理解もあり、自信をつけて就職をすることができました。

1 事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。
2 事業内容	障害福祉サービス ○指定特定相談支援事業 ○障害児相談支援事業
3 事業概要	開設時間平日9:00～18:00
4 職員体制	管理者1名、相談支援専門員2名(専従2名)

事業目標	実績報告	実施月
1. 基本相談支援を行います。	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、面談、関係者会議等については、対面での実施になりました。研修会については、リモートの良い部分も残しつつ、継続して実施されています。	通年
	○相談者は児童から大人まで、相談内容は多岐にわたるなど、幅広い専門性が必要とされました。課題解決にあたっては、相談員同士、また関係機関の力を借りて支援にあたりました。	通年
2. 質の高い事業者を目指します。	○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画、また定期的なモニタリングの実施を行いました。	通年
	○長野市相談支援専門員等スキルアップ研修会では、ハラスメント研修を行いました。昨今様々なハラスメントがある中、対策や起こった場合の対応などを学び、ハラスメントになるような言動をしていないか振り返る良い機会となりました。	通年
3. 関係機関との連携を強化します。	○長野市障害ふくしネット相談支援事業所連絡会に参加し、情報の取得に努めました。また連絡会で行われる研修会にも参加し、ライフステージの移行、地域生活言支援拠点、インクルージブ教育、カスタマーハラスメント等について学びました。	通年
	○長野市南部の相談支援事業所が集まり、日頃の悩み、相談支援の方法、地域の実態やニーズ等の情報交換を行いました。その後も顔の見える関係作りを意識し、直接的な関わりを持つようにしました。	通年

○利用状況

		障害児相談支援(子ども)			特定相談支援(大人)			備考
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
R03	年度	76	88	115	69	72	98	
R04	年度	82	104	144	70	67	140	
R05	年度	79	86	149	70	70	129	

登録者数については、横ばいとなりました。登録者数自体は変わりませんが、登録者については、進学、就職等による減少、新規利用による増加によって入れ替わりがありました。子ども対象者の約8割、大人対象者の6割は法人内のサービスを利用している方となっています。法人内のサービスであっても、相談支援事業所として中立公平性を保ちながら、サービスの必要性については、客観的に判断、支援することを努めました。

当初計画していた、長野市南部障害者相談支援センターへのプロポーザル参加については、検討の結果不参加となりました。引き続き、相談支援専門員の人材強化と確保は課題となっています。

昨年度、長野市こども未来部において開設された、こども総合支援センター「あのえっと」については、今のところ直接的な関わりはなく、連携の範囲を手探りしている状態となっています。

1 事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。		
2 事業内容	雇用安定事業 ・ 生活支援事業 長野県短期トレーニング事業		
3 事業概要	開所時間:9:00～17:30、月～金		
4 職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー 1名 主任職場定着支援ワーカー 1名	就業支援ワーカー 4名(うち定着支援担当 1名) 生活支援ワーカー 1名	計 7名

事業目標	実績報告	実施月
1. 本人・家族の想いに寄り添いながら就業・生活支援を行います	○就業支援 ・面談～職場見学・実習と本人の意向を確認しながら本人が意思決定できる支援に努めました。 ・アセスメントの実施、個別支援計画作成は進めており、それを基にした支援を行いました。	通年
	○定着支援 ・定着訪問のみでなく、電話やメール等を用いて支援を行いました。在職者が増えてきているので、優先順位をつけ必要な企業に訪問をしました。 ・離職希望や企業からの相談ケースは、主任職場定着支援担当が中心となり、本人、企業双方にとって良い方法を考えながら進めました。	通年
	○生活支援 ・就職前に福祉サービスの利用を希望する方も多かったため、見学や体験など本人が不安にならないよう支援を進めました。 ・体調面が整わず就職までの道のりが遠い利用者にと寄り添いつつ、関係機関の方と情報共有をしながら面談を重ねてじっくりと向き合いました。	6ヶ月毎
	○企業支援 ・新規の雇用を検討している企業に対して見学会・職場実習等を実施しながらマッチングできるよう支援しました。 ・在職者の定着に苦慮している企業に対して、ハローワークと連携して障害理解・合理的配慮等の研修を行いました。	通年
2. 地域とのネットワークの構築や、在職者・求職者のための交流会を開きます	○地域のネットワーク構築 ・ハローワークの専門援助部門と事業所部門の担当者との情報共有、連携強化ができるよう連絡会議を開催しました。 ・地域の支援力向上と連携強化のため、就労定着支援事業所やB型事業所との連絡協議会を開催しました。	通年
	○関係機関との連携 ・圏域内の自立支援協議会に参加し、関係機関と情報共有を図りつつ地域にとって有益な情報提供や提案が出来るよう努めました。 ・個々のケースでは役割分担を意識し関係機関と密な連携を図りました。	6ヶ月毎
	○在職者交流会・ピアサポート事業 ・在職者交流会は集合型4回、プレを1回開催しました。集合型では計4回で40名の参加があり、余暇の過ごし方などを話しました。 ・ピアサポートは3回開催。企業見学会で2社の見学を行いました。また9月～10月にかけて全4回で就職面接会に向けた講座を実施しました。講座は3～4名が参加し、ほぼ全員が就職内定を頂きました。 ・在職者交流のひとつとして、富山へのバスツアーを計画、実施しました。ナカポツからは在職者15名が参加しました。見学や思い思いにお土産を購入しリフレッシュする姿が見られました。	通年
3. 新規の利用者、企業、サービス提供事業所の掘り起こしをします	○キャンペーン ・自立支援協議会等でセンターの役割や支援について周知しました。 ・ゼロ企業や未達成企業を訪問し、業務の切り出しや職場環境のアセスメント等の支援をしました。	通年
4. 職員の就業・生活支援技術の向上を目指します	○ミーティング・研修 ・毎日17:20～、毎週水曜日午後17:00～にミーティングを行いました。各自ケース報告や課題のあるケースについてはケース検討を行いました。 ・社外研修に参加をして、個々の支援力向上や法改正、雇用情勢等の情報収集に努めました。	6ヶ月毎

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		期末利用者数	新規利用者数
R03	年度	747	106
R04	年度	862	116
R05	上半期	907	46
	下半期	955	48
	年度	955	94

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	48	24	325	96	221	10	604
求職中	18	7	79	20	160	8	265
その他	6	2	40	8	39	1	86
合計	72	33	444	124	420	19	955

1) 出身地域別

	上半期	下半期	合計
長野市	692	38	730
同一圏域内	207	9	216
その他	9	0	9

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	7	8	15
職業センター	1	0	1
特別支援学校	2	17	19
就労移行	9	5	14
福祉施設	2	6	8
行政	5	1	6
直接利用	4	2	6
その他	16	9	25
合計	46	48	94

3) 相談・支援(システム上)

		件数
R03	年度	7,527
R04	年度	8,694
R05	上半期	4,108
	下半期	3,993
	年度	8,101

4) オンライン支援件数

		件数
R05	上半期	12
	下半期	6
	年度	18

5) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
223	213	236	242	243	238	229	236	260	228	241	248	2,837

○分析

・新規相談について

R5年度の新規相談は136件でした(上半期:75件、下半期:61件)。相談の内訳は求職中:70件、在職中:23件、実習21件、学生22件でした。そのうち新規登録に繋がったケースは94件でした。求職者では普通学校・短大・専門学校の生徒の相談が増加しました。若い年代やブランクがあり就労準備性が整っていない方の相談では関係機関とも連携しながら、福祉サービスの利用も含めてご本人が気づきを持てるように支援を行いました。在職者からは転職をするか働き続けるか迷っている相談が多くあり、就業と定着の両面から支援を行いました。

・登録者について

R5年度末時点でのセンター登録者は955名でした(昨年比: +93名)。新規の相談者に対しては面談を重ねながら本人・家族の意向を聞き取り、必要と感じていただいた時点で登録をしました。相談内容に応じて委託相談員やその他関係機関を紹介するケースもありました。

・生活面について

福祉サービス利用に繋がった相談は14件(就労移行5件、A型3件、B型4件、自立訓練2件)です。生活支援ワーカーによる相談は延べ811件で昨年に比べ204件減少しています。減少理由としては、利用者からの毎日複数回掛かってくる電話を控えて頂いたことに伴うものです。主な相談内容は、「就労(22.68%)」、「不安解消・情緒安定(20.31%)」、「家族関係・人間関係(13.90%)」の相談が多い状況にありました。求職者では一般就労へ向かう不安を聴き取ったり、福祉サービスの見学同行等を行いました。在職には情緒面や人間関係の相談についてご本人の希望を丁寧に聞き取り働き続けられるよう支援しました。

・相談支援件数について

3)について…延べの相談件数を記載しました。昨年より約500件程件数が減少しましたが、毎日電話をかけてくる利用者数名に電話を控えてもらった事が要因の一つと考えられます。4)では、オンラインでの支援件数を記載しました。定着の面談や支援会議でZOOMを使う機会がありましたが、コロナ禍が落ち着き昨年度より大幅に減少しました(昨年比: -36件)。5)では月別相談者の実人数を記載しました。昨年とほぼ変わらない件数でした。(昨年比: +13名)。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
R03	年度	131	1	56%
R04	年度	109	0	51%
R05	上半期	52	2	46%
	下半期	52	0	71%
	年度	104	2	58%

(延べ件数)

(実人数)

3. 一般就労に向けたアセスメント件数

R05	上半期	5
	下半期	9
	年度	14

4. 個別支援計画作成件数

R05	上半期	20
	下半期	23
	年度	43

○分析

・職場実習について（目標値：実習斡旋件数125件）

過去2年間の平均実習数は120件で、今年度は104件でした(昨年比:-5件)。短期トレーニング利用の実人数は60名で、うち35名が就職となりました(移行率58%)。体験的な実習として実施した方は5名でした。104件のうち47件が1回の実習で終了しました(45%)。昨年同様、同一企業で複数回実習を行う方が少なかったこと(実習期間を長く取らない)が実習件数減少の要因と考えられますが、その背景として法定雇用率が引き上がる事を見据えて雇用への動きが活発であり、採否の判断が早くなっていることが考えられます。職場実習開拓件数は28件でしたが、一度つながった企業との連携が強くなり再度実習をするケースが多くなっています。

・一般就労に向けたアセスメント、個別支援計画の作成について

R5年度のアセスメント件数は14件で、個別支援計画の作成件数は43件でした。センター内でのツールを使ったアセスメントや実習中の様子をアセスメントしてご本人へフィードバックを行いました。個別支援計画を作成することで本人と希望を確認しながら目標を共有して支援を行いました。件数、精度ともに向上していけるようセンター内で努めていきます。

3. 就職状況

		就職者数	定着職場訪問
R03	年度	71	911
R04	年度	66	922
R05	上半期	54	378
	下半期	17	319
	年度	71	697

主任職場定着支援ワーカーの相談状況(支援件数)

	身体	知的	精神	その他	合計
業務内容	3	32	1	5	41
対人関係	0	10	0	0	10
生活面	0	72	3	0	75
その他	0	2	0	0	2
合計	3	116	4	5	128

○分析

・就職について（目標値：就職件数71件、就職率81.6%）

過去2年間の平均就職件数73件に対して、今年度は71件でした(一般66名、A型5名)。所属機関がなく、当センターのみで相談をしている就職者は新卒を含め63名でした(一般58名、A型5名)。就職件数が増加した要因として、法定雇用率が引き上がる事を見据えて雇用への動きが活発となり、すでに繋がっている企業を中心に求職者を求められ、就職につながるケースが増えたことが考えられます。ただ昨年と同様に新規相談の中で、すぐに就職に向けて動くことができる求職者が少なかったこと、体調が悪化して離職した方が福祉サービスを次の選択肢とする傾向は続いており、求職者の掘り起こしが次年度以降も課題となっています。新規求職者数80名に対し就職率は82.5%でした。

・定着支援について（目標値：1年経過後の定着率90%）

過去2年間の平均職場定着訪問件数は916件で、今年度は697件(昨年度比:-219件)でした。R4年4月～R5年3月に就職をした方の1年経過時の定着率は93%でした。精神障害・発達障害の在職者からは人間関係等での悩み相談が多くあり、面談や電話・メールでの支援が増えています。話を聞いた上で企業へ訪問し企業担当者と相談することで、定着に繋げることができました。

また就労定着支援事業所からの引き継ぎが8事業所15件ありました。半年前に連絡をいただき面談同席や職場訪問に同行をして、ご本人が不安にならないよう引き継ぎを進めました。

・主任職場定着支援担当について

職場定着が困難な事例の相談件数は226件でした。ご本人の借金問題から仕事に支障が出て就労の継続が難しいケースが多くありました。関係機関と連携をとりながら、生活基盤を立て直し継続勤務を目指しました。企業からの相談については、24社の企業から29件の相談がありました。長期雇用の方の勤務態度や出勤率に課題があり、今後の雇用に不安を抱える相談が多くありました。本人の状況確認、時間や業務内容の見直し、等を行い改善を図り調整を図ることで職場定着に繋がりましたが、やむを得ず退職をするケースについては、双方にとっていい終わり方ができるよう配慮をしながら退職の手続きを進めました。